

男女共同参画社会づくり推進活動 事業成果報告書

福島県退職女性教職員あけぼの会北会支部

会 長 長谷川恵子



- 事業名 「第11回福島県男女共生のつどい」参加研修事業
- 日 時 平成25年1月20日(日) 10:00～15:00
- 場 所 福島県文化センター小ホール
- 内 容 10:30～12:15 講演
「ジャーナリストが見る震災後の福島」 講師: 藍原寛子さん
13:00～15:00 シンポジウム
- 参加者 6名、(全 約350名)

《 オープニング 》 10:30～

- 独唱 吉村耕一 (テノール歌手) トーランドットより
- 開会セレモニー

- ・開会のことば 実行委員会副委員長 大川原けい子
- ・主催者挨拶 実行委員会委員長 青木千代美
- ・来賓祝辞 福島県知事 佐藤雄平代理 村田文雄
福島市長 瀬戸孝則
- ・来賓紹介 福島県教育長 杉 昭重 代理 清野正勝
福島県男女共生センター館長 千葉悦子

代理 中野伸介

《 講演 》 11:00～

演題 「ジャーナリストが見る震災後の福島」 ～行動する女性たちと情報～
講師 藍原寛子氏 (ジャーナリスト)

◇講演内容

- ①震災直後から始まった避難生活→女性スペース設置、DVやアルコール依存などの問題や青少年の保護の問題など起こる。
- ②「放射線の影響」が変えた高齢者の環境→行政の指示通りに動けない市民の存在、行政サービス、情報から取り残される人々、家族介護のために一緒に残る女性(主婦)
- ③飯舘村の「取り残された住民」→届かない住民の声、声を挙げ始めた女性たち
- ④仮設住宅での生活始まる→高齢者、障害者など社会的弱者の入居に遅れ。スロープのない障害者仮設。生活支援員の配置で孤独死予防などの対策
- ⑤高齢者、障害者の避難困難に取り残される人々→ 屋内待避のまま取り残される、警戒区はゴーストタウンに。盗難被害多発、
(※その他 別紙プリント参照)

《 昼食休憩 》 12:15~13:00

《 シンポジウム 》 13:00~14:50

テーマ 「男女がともにすすめる復興への通のり」

コーディネーター 山口 誓子 福島県女性団体連絡協議会副会長
パネリスト 猪狩レイ子 財団法人 福島県婦人団体連合会評議員
長田信夫 JA福島県青年連盟委員長
西本幸子 福島県生活協同組合連合会理事
石田登喜子 一般社団法人 福島県助産師会会長

※ それぞれお団体から、復興に向けて取り組み活動していることが報告された。

《 大会宣言採択 》 14:50~

※別紙の大会宣言を採択した。

《 閉会のことば 》 15:00~

・実行委員会事務局長 池田好江

《 成果・感想 》

- ①震災後の初めての県の共生のつどい開催は、意義のあるイベントであった。
- ②小規模であったが、手作りのつどいで、企画運営の方々に深く感謝申し上げたい。
- ③講師の藍原さんは、現在はフリージャーナリストなので、所属のはっきりしている報道関係者は閉め出されて、取材を許されないようなところでも、取材することが出来た。また、誰にはばかることなく書くことが出来たと言っておられた。そのような方の話であり、「行動する女性たち」にスポットをあてておられたので、興味を持って聞くことが出来た。藍原さんにエールを送りたい。
- ④藍原さんのお話をもっとゆっくりお聞きしたい。
- ⑤シンポジウムでは、女性団体の真摯な取り組みの実情を理解することが出来た。実際に活動している団体の、活動の状況が発表されたので、よく捉えることが出来た。発表のしたかも、わかりやすく工夫されていて、とても良かった。
- ⑥全体に参加者が少ないように思いました。時節がら、会津は仕方ありませんが、中通りの方にはもっと参加して欲しかった。
- ⑦募集のあり方にも課題があるように思います。正式な通知が遅かったようです。「あるらしい」という情報しかなかったので参加態勢が遅れたようにも思いました。
- ⑧女性たちが、勇気を持って発言し、女性の視点を入れた活動が展開されていることがあるということが理解できました。
- ⑨しかし、これで終わらせては行けない。原発ゼロの運動にまで発展させなければいけないということも痛感いたしました。復興に貢献している。役に立っているということで、原発ゼロに向かう方向が風化されてはいけなと痛感した次第です。

◎補助金をいただいて、有意義な“つどい”に参加させていただきありがとうございました。

大会宣言(案)

2011年3月11日の東日本大震災・原発事故から1年10カ月、15万人を超える避難者をはじめ多くの県民の苦しみが続いています。仮設住宅や借り上げ住宅に暮らす人々は2度目の冬の寒さの中で過酷な生活を強いられています。

目に見えない放射能は豊かな自然を汚染し、人々から住まいや働く場を奪い、家族を引き離し、夢や希望をも奪っています。避難所では女性の視点が配慮されず、性別役割分担や女性への暴力が問題になりました。遅々として進まない復興や除染への苛立ち、低線量被ばくへの不安、風評被害や放射能による差別など先の見えない困難な課題が山積しています。

私たちは復興をめざし、つどい・学びあおうと「震災・原発事故と私たちの暮らしー男女がともにすすめる復興への道のりー」をテーマに、第11回「福島県男女共生のつどい」を開催しました。

厳しい状況の中、県内各地で、被災者への支援、子どもたちを放射線から守り安心して子どもを産み育てるための支援、安全な食べ物の提供や風評被害の払しょくへの努力、ボランティア活動など、人々が主体性を発揮し復興への歩みを続けていることを学びあいました。

私たちはこの難局にあたって、福島県民としての誇りを持ち、一日も早い復興をめざし、お互いを理解し連帯し、男女がともに知恵と力を出し合い行動することを宣言します。

- 1、多様性を重んじ、性別によって差別されず、固定的な性別役割分担意識を排し、一人一人が大切にされ、能力が発揮できる社会をめざします。
- 2、復興や防災に関する政策決定過程に積極的に女性が参画し、男女共同参画の視点を生かした地域づくり・まちづくりをすすめます。
- 3、放射線から子どもたちを守り、のびのびと健やかに育つ環境づくりに努めます。
- 4、原発のない福島、再生可能エネルギーを推進する福島、安全で安心してらせる福島をめざします。
- 5、私たちは社会を変革できる力を持っていることを自覚し、主体性を発揮し行動します。


2013年1月20日

第11回福島県男女共生のつどい実行委員会・福島県女性団体連絡協議会

平成25年1月25日

男女共同参画社会づくり推進活動補助金収支決算書

会津若松市長
室井照平様

会津若松市湯川南6-11
福島県退職女性教職員あけぼの会北会支部
会 長 長谷川恵子 

平成25年1月20日(日)に行われました「第11回 福島県男女共生のつどい」
につきまして、下記のようにご報告申し上げます。

事業費 (補助金を含む収支)

1, 支出の部

福島行き高速バス(往復)	2,800円×6名=16,800円
市内路線バス(往復)	200円×6名=1,200円
参加費	400円×6名=2,400円
合 計	20,400円

2, 収入の部

自己負担	10,200円
補助金	10,200円

以 上